

表紙に使用している画像は、小川和紙の「透かし入り和紙（青海波）」です。
青海波とは半円形を同心円状に重ねた波形の模様のことです。伝統的な和柄の一つです。

P.2

特集 視察に行きました 調査研究レポート 3常任委員会

P.4

11月27日を 和紙の日に 制定



夏だ！ プールだ！ みどりが丘小だう！！

No.84

6月定例会

2017 夏号

埼玉県小川町議会

P.12

わたしのひとコト「だから小川が好き」

吉田 肇さん
自然とともに生きていることを実感しています

田島温子さん
仕事に復帰し、家事に育児に仕事に奮闘中です

役場新人職員9人の声
裏表紙の「聞く×つなぐ」
も読んでね

A blue-themed section featuring two people speaking. On the left, a man named Yoshida is shown with a speech bubble. On the right, a woman named Tanaka is shown. A small cartoon character of a green sprout with a face is in the bottom left corner.

P.6

一般質問に 11人が登壇

議員のつぶやきにも注目

3常任委員会 観察に行きました

調査研究レポート

当議会では、毎年6月定例会で各常任委員会における調査研究のまとめを、会議規則に基づき「議長」に報告しています。町が取り組む多くの事務事業から、常任委員会の所管ごとに重要課題を見定め、先進地での観察研修を行っています。今回は、調査研究のまとめをレポート仕立てで報告します。

【厚生文教常任委員会】

研究テーマ

日本一の子育て構想

日 時 平成29年1月12日(木)～13日(金)

場 所 島根県邑南町

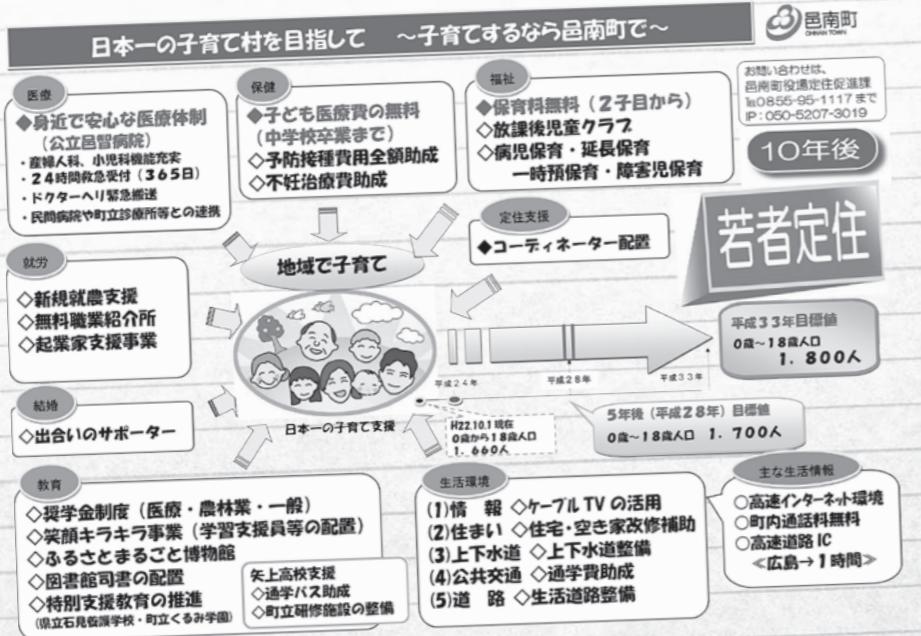
出席委員 高橋さゆり委員長 田中照子副委員長 金子美登・戸口 勝・松本修三 各委員

【調査研究のまとめ】

邑南町では、子育ては定住促進の大きな柱であり、「子育て＝子育て主管課」という発想ではなく、全庁を挙げて取り組むべきものと位置づけられている。このことは、根底に「このままでは町が消滅する」という危機感を町全体が共有していることがある。

当町においても「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における基本目標の一つである「若い世代の結婚・出産・子育てに希望をかなえる」ために、今後組織として、関係各課を円滑に結びつけるコーディネート機能を導入するべきと考える。

また、子育て支援策は町の生き残りをかけた最重要施策であり、各種事業について単なる自治体競争におちいることなく「小川町らしさ」を打ち出し、明確なビジョンのもとに展開されることを望むものである。



研究テーマ

住民参画によるまちづくり

日 時 平成28年11月16日(水)～17日(木)

場 所 栃木県 宇都宮大学地域デザイン科学部・さくら市

出席委員 島崎隆夫委員長 笠原 武副委員長 山口勝士・宮澤幹雄・根岸成美・高瀬 勉 各委員

【調査研究のまとめ】

平成28年度に新設された宇都宮大学地域デザイン科学部は、付属の「地域デザインセンター」とともに、栃木県内の自治体をはじめとした各種団体と連携し、地域に根ざした取り組み・研究を行なっている。また今視察では、国が進める「小さな拠点づくり事業」において、同学部と共同研究に取り組む栃木県さくら市に赴き、その取り組みの経緯・経過と、主体的な住民参画による生涯学習活動や地域活性化事業等への支援について学んだ。

いずれも、時代の変遷とともに衰退する地域コミュニティに関する対策が鍵であり、前段にあつては地域の情報をデータ化した「地域カルテ」の作成、後段ではキーパーソンとなる人材の発掘・育成が重要である。

図らずも、当町においては今年度新設された防災地域支援課において、これまで以上に、地域に特化した取り組みが展開されることである。大いに期待し、時代や地域の実情に見合った新たな地方自治の姿を見出すよう願うものである。

【総務常任委員会】



共同研究促進
少子高齢化対応等の地域課題を解決するため、大学の専門性を活かした分析を行う。また、専門知識を有する教員とのコーディネートの強化を図る。

【経済建設常任委員会】

研究テーマ

地場産業を生かした雇用の創出と町の活性化策

日 時 平成28年11月14日(月)～15日(火)

場 所 島根県浜田市

出席委員 大戸久一委員長 井口亮一副委員長 松葉幸雄・柴崎 勝・笠原規弘 各委員

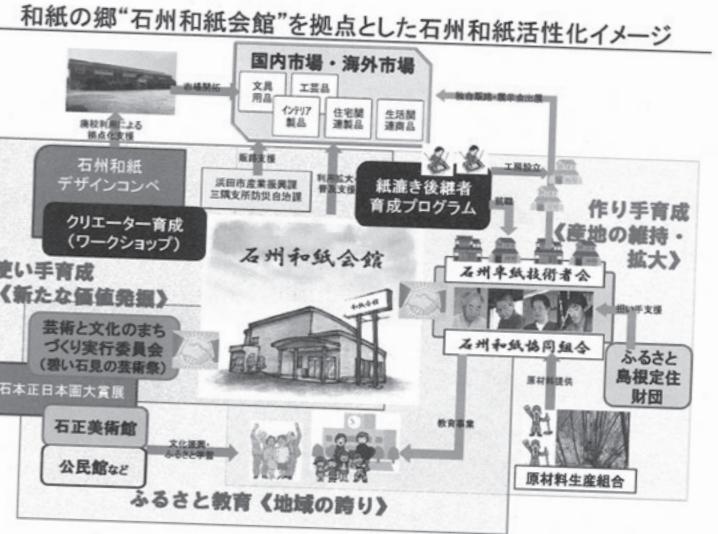
【調査研究のまとめ】

第1回和紙サミット開催地の浜田市を訪問し、和紙を活かした雇用と活性化策について調査研究した。

浜田市では、旧三隅町にある「石州和紙会館」を拠点とした活性化のための体制・対策が図られている。産地の維持拡大のために紙漉き後継者の育成に手厚い支援を行なっているほか、クリエーターの育成や和紙を活用した芸術祭の開催など、和紙の新たな価値を発掘するための使い手の育成にも力を注いでいる。

そしてこれらが生産から販路・市場開拓まで体系的に組織化され、連携が図られている。

細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを重く受けとめ、浜田市同様技術者と関係者の役割体制及び販路拡大の施策を構築することが重要である。



一般質問とは、町の施策等について、議員が町に考え方や意見を求めるものです。議会だよりでは、このやりとりを要約して報告します。

1年つて、あつと
楽しい間ですよね。

たかせ
高瀬

つとむ
勉が問う



次期町長選挙に対する考えは



第2回和紙サミットを成功に導いた町長。
さらなるリーダーシップの発揮に期待します。

Q 就任時の所信表明等で示した3つの基本方針。今任期も残すところ1年余りとなつたが、各取り組みの評価は。

A 町長 基本方針の1点目「町活性化のために」では、企業立地支援条例に基づき、ひばり台と旧消防署跡地の町有地に企業を誘致しました。2点目の「安全安心のまちづくり」では、主に子育て支援施策の充実を図り、合計特殊出生率も平成24年0・78から平成27年1・13と向上しつつあります。3点目の「豊かな自然と歴史文化を観光資源として活用」では、ユネスコ

「無形文化遺産登録を受けた細川紙を活用するとともに、後継者育成事業に取り組んでいます。さる5月12日には、ユネスコ総会議長スタンレー・ムツンバ・シマター氏が来町し、紙漉き技術を視察しました。今後、小川和紙のPRに当たり、さまざまな機会で今訪問をアピールしていきます。

Q 単刀直入に、1年後に控えた次期町長選挙に対する考えは。

A 町長 町には、まだまだ諸課題が山積しています。したがつて、今後も「生まれてよかつた・住んでよかつた・長生きしてよかつた」と思えるまちづくりを最大の目標とし、「町民とともに歩む」を旗印に町職員と一緒に、引き続き町政運営の重責を担つていきたいと考えています。



子育て支援拠点の周辺は、全てのひとに優しく安全でありたい。

Q 「想定内」の危機管理体制を

A 町長 町独自でのミサイル着弾や核の使用に備える危機管理と地域支援は、防災地域支援課長 国からの指示が積み重なっています。したがつて、今後も「生まれてよかつた・住んでよかつた・長生きしてよかつた」と思えるまちづくりを最大の目標とし、「町民とともに歩む」を旗印に町職員と一緒に、引き続き町政運営の重責を担つていきたいと考えています。



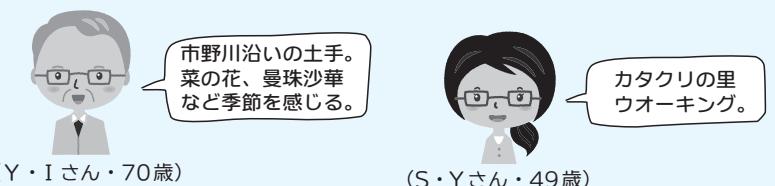
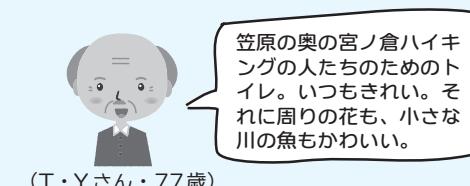
地方創生拠点整備交付金の活用で、生まれ変わった現在の子育て支援センター。

Q 閉校から6年が経過する旧上野台中学校。再利用の計画は。

A 政策推進課長 現在は特別養護老人ホームを初め、保育所等の子育て支援施設や東小川地区の路上駐車解消のための駐車場等での活用を模索し、敷地の売却に向けた協議を関係各課で行ないました。

Q 町内業者育成に資する町の考え方・取り組みは。

A 政策推進課長 雇用の創出や税収の確保、地域経済の活性化や災害時の対応等からも町内業者の育成は大変重要なと考えています。町発注の公共工事においては、地元業者の受注機会を確保するため、指名競争入札の中で規模や内容に応じ、地元業者を指名するよう努めています。



新年度事業の設計工事発注・完成引き渡しを早期に。

まつもとしゅうぞう
松本修二が問う



平成29年度事業の進捗は

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考え方
「小川町のおすすめスポット」

先生が過労死ラインの勤務では、いい教育はできません。

笠原武が問う

笠原規弘が問う

井口亮一が問う

働き方に対する意識改革は、本当に進むのか。

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考え方
「小川町のおすすめスポット」

教職員勤務体系の改革を

子供たちへの教育効果を最優先に考えるべきです。

効果的な小・中学校の再編は

働き方に対する意識改革は、本当に進むのか。

教職員の長時間労働に対策を



碎石場から流出した砂れきが沈殿した川。



迫力と喝采。大規模な体育祭こそ中学校の象徴です。

A 水源を守るため、近隣町村と連携し、碎石場に係る条例の制定は。
Q 環境農林課長 新たな条例は考えていませんが、関係機関や団体と連携し保全に努めています。

碎石場に係る条例の制定を

A 事項の増加などによるものではないか。
Q 学校教育課長 原因については、そのようなことも含め、慎重に検討・調査していきます。
A 現在の教職員の勤務体系そのものに、無理があると言われているがどうか。
Q 学校教育課長 教員が対応すべき課題は多様化・複雑化し、増加しています。町としては勤務状況の把握に努め、職員が過重にならないようにしていきます。

Q 文部科学省の昨年度の教員勤務時間実態調査で、「過労死ライン」**2**を超える人は、小学校33.5%、中学校5.7%であることがわかった。当町の調査結果は。
A 学校教育課長 昨年6月の1ヵ月間を見ると、勤務時間外の在校時間は、平均して小学校では63時間56分、中学校では59時間12分となっています。「過労死ライン」の率は出しておりません。

Q 文部科学省の調査では、「ここ10年間で週平均5時間増えているとなつている。原因の中心は、パソコン作業や報告事項の増加などによるものではないか。

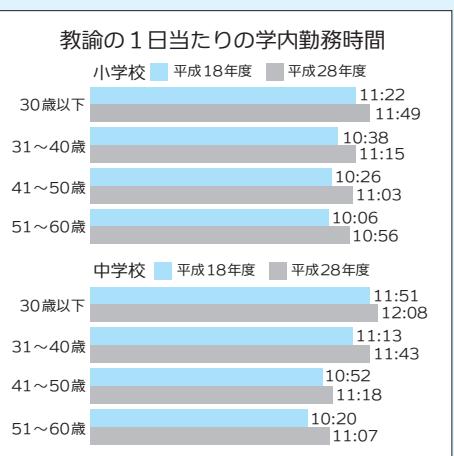
Q 文部科学省の昨年度の教員勤務時間実態調査で、「過労死ライン」**2**を超える人は、小学校33.5%、中学校5.7%であることがわかった。当町の調査結果は。
A 学校教育課長 昨年6月の1ヵ月間を見ると、勤務時間外の在校時間は、平均して小学校では63時間56分、中学校では59時間12分となっています。「過労死ライン」の率は出しておりません。

Q 現在と5年後の児童生徒数は。
A 学校教育課長 現在、八和田小は132人で5年後には114人と見込んでいます。同様に小川小は389が316、大河小は208が165、東小川小は105が46、竹沢小は89が75、みどりが丘小は228が198、東中は359が288、西中は176が133、櫻台中は105が126の試算です。

Q 学級数や教職員が少ないと考えられる課題は。

Q 昨秋、文部科学省はフルタイムで働く小中学校の先生方を対象に、連続する7日間の勤務状況について調査した。その結果、10年前と比べて労働時間はさらに増え、「過労死ライン」**2**に達した例が小学校で3割、中学校で6割であったと伝えられた。町立学校における教職員の出退勤等の勤務記録は適正に管理されているか。

Q 小学校で3割、中学校で6割であったと伝えられた。町立学校における教職員の出退勤等の勤務記録は適正に管理されているか。
A 学校教育課長 全ての学校で出退勤記録簿を作成し、把握に努めています。



A 川島町が小学校を4校から2校に統合するようだが、当町での考えは。
Q 学校教育課長 現在、適正規模研究会にて、規模が与える教育効果を追究中です。今後、検討委員会を組織し、再編案を協議していくことを考えています。

Q 教職員の時間外勤務はどのくらいになっているか。
A 学校教育課長 昨年6月の1ヵ月間を見ると、勤務時間外の在校時間は、平均して小学校では63時間56分、中学校では59時間12分となっています。

Q 教職員における長時間労働の現実に 対して、どのように改善を図るのか。
A 学校教育課長 学校管理職との連携を密にして、働き方に改善を図ります。また、負担軽減策と革を図っていきます。また、夏季休業を実施して、学校生活サポートや部活動指導者派遣事業を通じ、教員の支援に努めます。さらに計画的な年休取得の推進や、サマーリフレッシュユニークの導入にあわせて、夏休み中に十分な休養が取れるようになっていきます。

解説 過労死ライン②

厚生労働省は、脳や心臓疾患による過労死の労災認定基準として、発症前1ヵ月間に約100時間、または発症前2~6ヵ月間に1ヵ月あたり約80時間を超える時間外労働(残業)があった場合に、過労死の危険性が高まり、業務と発症との関連性が強いとしている。



一般質問の全文は、町ホームページの「会議録の検索と閲覧」ページでご覧いただけます。(6月定例会の会議録は8月末ごろ掲載の予定です)

やまぐちかつし
山口勝士が問う

楽しい健康づくりで
 笹原があふれる町に
 なるといいなあ。

たかはし
高橋さゆりが問う

つくつてしまつた
施設は使いこなし
 ましようよ!

しまざきたかお
島崎隆夫が問う

町民に夢を! 町が
 五輪にかかること
 で町民を元気に!

健康マイレージ の積極的活用を

A Q

今年度の重点施策でもある「健康マイレージ事業」だが、進捗や展開は。健康福祉課長 広報5月号で募集を開始したところ、多くの反響があり、当初100人であった枠を倍の200人に拡大しました。また、各自の歩数計データを入力するタブレット端末を町内8カ所に設置済みです。さらには、登録者の中から希望する方を対象に、町独自の「健康ポイント事業」を7月1日から開始します。町の各種検診や健康教室に参加することでポイントが貯まり、商品との交換ができます。

たかはし
高橋さゆりが問う

パトリアおがわ の充実を

A Q

現状の施設をどのように維持管理していくのか。今後の方向性は。健康福祉課長 開館から18年となり、経年劣化による設備の入れ替えや、急な故障に対応せざるを得ないことが増えています。厳しい財政状況の中で多額の工事費を要するものも多いので、まずは利用者の安全にかかる事項を最優先とし、施設の維持に必要な修理や備品購入を予算の範囲内で行なっています。引き続き利用者の安全に努め、交流の場を提供するとともに、健康増進事業を行なっていきます。

しまざきたかお
島崎隆夫が問う

来る東京五輪に 積極的な関与を

A Q

3年後の五輪において和紙が使われれば、「町の歴史に残る」「町民の誇りになる」「生業につながっていく」などになると考える。和紙関連自治体との連携や県知事への協力依頼は進んでいるのか。また、訪日外国人への準備の進捗として、今夏の七夕まつりでできることは。A にぎわい創出課長 和紙の使用に関する安全に努め、交流の場を提供するとともに、健康増進事業を行なつてていきます。

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考え方
「小川町のおすすめ
スポット」



(M・Aさん・50歳)

(T・Mさん・56歳)

Q 住民の力を活かす制度の構築を
 A 防災地域支援課長 県内では嵐山町・新座市等が実施しています。この仕組みは町内会や行政区」と、もしくは地域ごとに担当の職員を配置し、連携を深め地域との橋渡し役として活動することで、コミュニティの活性化を目指しています。

Q より身近な声を拾い上げ、とともにまちづくりを進めていく上で「町職員の行政区担当制」を検討しては。

A Q 食堂のメニューは、もっと工夫できないものか。
 A Q 間で何度もメニューの内容や品数、人件費等について話し合いを行なっていますが、改善できない点が多くあります。現在、町の管理栄養士のレスピ等を活用したヘルシーメニューの提供を協議しています。トレーイングマシンや健康遊具の導入は考えられないか。

A Q 五輪新種目のフリークライミング、クランク3などと、ゴルフ場がたくさんある町なのでゴルフを授業に取り入れては。A 学校教育課長 五輪種目などの新しいものに触れる機会をつくれるように研究していきます。

Q 財政状況を好転させる打開策は
 A 政策推進課長 町民憲章に「産業をおこし」とある。さらに企業誘致を推進すべきでは。政策推進課長 税収減や社会保障等の経費の増大により、以前にも増して厳しい財政状況です。企業誘致や定住者増加に向けて、行政改革に取り組みます。



町内8カ所に設置されたタブレット端末。
 健康ポイントを貯めて抽選に応募しよう。



こんなに環境のよい施設です。皆さんお越し下さい。



ユネスコ登録の3紙の連携にとどまらず、日本の和紙関係で団結を。

元気プラザから見る
 外秩父の山々(七峰連山)。

(T・Tさん・62歳)

✓解説 ベンチ

1910年に南フランスで生まれた、誰でも楽しめる球技で、ヨーロッパを中心に普及しているスポーツのこと。目標球(ビュット)に金属製のボールを投げ合って、相手のボールより近づけることで得点を競うゲームです。

定住には小川町ファンづくりを

田中照子が問う

わが町は、若者の移住希望をかなえることのできる町です。



散歩ツアーは、「まちなか」の歴史を中心に観光ボランティアガイドが案内します。



伝統工芸会館南側の休耕地を利用したポピー畑。

AQ 今後、「産後うつ」がさらに増えると想定される中、その対策は。

AQ 健康福祉課長 「産後うつ」は出産後早期にあらわれるため、産後2カ月くらいまでに最初の訪問を行ない、個に応じた母親への必要な切れ目ない支援を行なっていきます。また、父親の健康状態は母親に大きな影響を与えるため、今年度からママパパ教室での資料に、父親の健康に関するページを追加しました。

定住促進に子育て支援の充実を

たが、実績として10件の移住サポートができました。今後も、物件の掘り起しを進め、移住希望者に情報提供ができるよう地元の不動産業者との連携や、各地区の皆さんのが協力を得ていきたいと考えます。

AQ 「おがわ まちなか散歩ツアー」の実績と参加者の感想は。

AQ にぎわい創出課長 ことし1月から事業を開始し、6件の案内を行ないました。好意的な意見が中心でしたが、「解説の時間を増やしてほしい」という要望もありました。

AQ 移住サポートセンターの現時点での評価と反省、さらに今後の取り組みは。

AQ にぎわい創出課長 登録物件数が27件で移住希望者が97件、条件が合わないので契約に至らないケースもあります。

全町民参加で町の活性化を

大戸久一が問う

お金かけなくてもできることがあるよ。



AQ 休耕地を利用した一面のポピー畑等、来町者に楽しんでもらう地域おこしに支援を。

AQ にぎわい創出課長 地域の環境整備や活性化活動等を積極的に行なっている団体を町全体でフォローし、PR、支援していきます。

AQ 表彰制度は。

AQ 防災地域支援課長 地域や町が輝くすばらしい活動を町広報紙やホームページで紹介し、県シラコバト賞表彰への籠の設置は。

推薦をしています。町独自の表彰については、先進事例を踏まえ研究していきます。

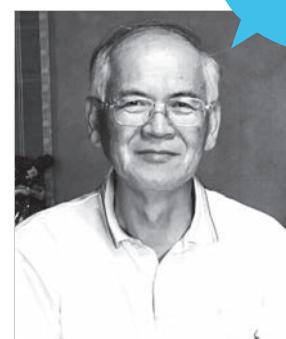
AQ にぎわい創出課長 各種アイデアを募集する方法など、七夕まつり実行委員会で研究していきます。

AQ いた方に役場等公共施設に名前を載した看板を設置し、感謝の気持ちをあらわしたらどうか。

AQ にぎわい創出課長 名前は七夕まつりのパンフレットに記載し、感謝の気持ちをあらわしています。掲示については、今後検討していきます。

退 職後、毎日の散歩で地元の山河の移りを目にし、自然とともに生きていく。これを実感し、農業・陶芸・仏像彫刻に意欲をもらっている。さらに「社寺などを巡ることで、地域の歴史にも関心が湧き起つ『小川町史』などをひもといっている。ここ小川町は私淑する民芸運動家の柳宗悦が細川紙の見出した所。地味な和紙をどう宣伝し、魅力とするかが課題である。私は彫刻を統工芸会館で行なっているが、館内催事、家庭のスペースの魅力的活用が課題だと感じる。埼玉には多くの工芸家がいる。日々の生活（衣食住）を美しくする日用品を、もっと発信してもよいのではないか。国の重要文化財の吉田家住宅で、毎年「春芸展」を実施しているが、生きた使われ方をしてよい。文化財でなくとも町には「小京都」にふさわしい建物、町並み、自然がまだ残る。それらを守り、点を線に結ぶ「まちおこし」を願う。

地元を見つめる



吉田 肇さん (下勝呂)
Hajime Yoshida

私は1歳9ヶ月になる娘がいます。近になつて仕事にも復帰し、家事に育児に仕事」と奮闘しています。まだ慣れない生活リズムの中で難しいこともあります。族に手伝つてもらい両立できるようになります。近頃の目標は、子供の野菜嫌いをなくすこと。本やネットでいろんなレシピを研究中です。皆さん、何かよい方法はありますか。感謝です。

子育ては、たまに(?)イライラしたりすることもあるけど、私に似た「まんまるな寝顔」を見ると、そんな気持ちも吹き飛んでしまいます。近頃の目標は、子供の野菜嫌いをなくすこと。本やネットでいろんなレシピを研究中です。皆さん、何かよい方法はありますか。感謝です。



田島温子さん (腰上)
Atsuko Tajima

子供の成長を実感しています

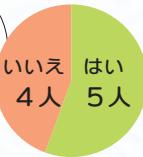


議員の聞くXつなぐ

職員の声

新人9人に聞く

議会だよりを読んだことがありますか？



いいえ	はい
4人	5人





今春から役場職員として新たなスタートを切った9人の精鋭たち。新卒者はもちろんのこと、民間企業を経て転身した方も。終始、年齢や性別を超えた“同期”的なチームワーク・仲のよさを感じる取材となりました。今後の活躍に期待し、エールを送ります！

この際 言わせて！

(原文のまま掲載しています)

- ・取材時間を昼休み以外にしていただけるとありがたい…
- ・自分と同じくらいの若い世代に働きかける仕事をしたいと思っていたのですが、現実はお年寄りの方が多いです(笑)。でもとてもやりがいがあります。
- ・小川町は住むにはよいところ。でも、遊ぶには…
- ・最終的には、にぎわい創出課長になりたいです。

ご協力ありがとうございました

編集後記

あつという間の2年間。

“冒険”と称した紙面のリニューアル。おかげさまで奨励賞の栄に浴することができました。今メンバーで送り出す最終の議会だよりです。各委員から今期の取り組みを振り返り、皆さんにメッセージです！

「なぜ、この表紙なのか？」つという驚きやうらやみの声。これからも積極的開墾を恐れないでいきま～す。



戸口 勝

沈黙が続いたり、激論や笑い声が上がったり、朝9時から時には夜7時ごろまでの編集会議。自分をほめてやりたい。



笠原 武

最高の仲間と奮闘した2年間。目指す“お宝”は何だったろう。答えは今後の取り組みで。冒険は続きます。

高瀬 勉

伝える技術を学ぶことに加えて、聞く技術の大切さを考えさせられた2年間でした。一步前進です。

島崎隆夫

町民の皆さんに読みやすく分かりやすい議会報。副委員長として全力で取り組みました。自己評価は70点。

田中照子



委員から叱咤激励をいただきました。引き続き「読んでもらえる議会報」を心掛けます。

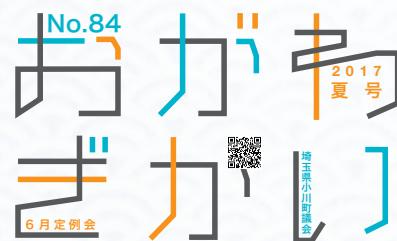
笠原規弘



傍聴からはじめよう!!

どなたでも傍聴できます（事前連絡は不要です）
役場3階にお越しください

次回定例会は
8月31日(木)～
開会は**10時**です



No.84

小川町議会だより
平成29年6月定例会夏号
(8月1日発行)

発行責任者：小川町議会議長 根岸成美

編 集：議会広報発行特別委員会

委員長 高瀬 勉 副委員長 田中照子

委 員 戸口 勝・笠原 武・島崎隆夫・笠原規弘

町民にキャラクターになつたよ！

